

# PRO-LIFE NEWS

(中絶に反対する運動)

〒780 高知市新本町一丁目七番三十一号

## 命をありがとう

取り除く手術をした際にも死にそうになった。

彼女は洗礼を受けた。彼女と夫の両方の家族がベットの間に呼ばれた。彼女は助かった。この初めての出産のために、後の2回の出産も大変な思いをすることになった。

この話を読んで感情的にならないようにするのは難しい。この少女は私の母である。そして赤ん坊は私なのだ。すべての妊娠、すべての『胎児』は誰かであることを忘れてはいけない。

クレイマー神父

なにを

選択するか？

選択、私たちは選択をすることが出来る自由を誇りに思っています。私たちは結婚するかどうか、また誰と結婚するか選ぶことができます。自動車修理工になるか、弁護士か、看護婦か、あるいは詩人になるかも私たちの自由です。私たちは信じる神を礼拝し、私たちの考えを最もよく代表すると思われる候補者を選挙で選ぶこともできます。

しかし、私たちの選択にも制限があります。地球の資源は貴重なので、私たちは水を汚染したり、森林を破壊する選択をすることはできません。人間の生命も尊いものですから、スピード違反や酒、麻薬を飲んで運転するべきではありません。また、痴呆症に苦しむ老人の生命を奪う

中絶について議論する時は、感情的になりすぎないよう常に気をつけなければならぬ。科学的事実、法的事実といった事実のみを考えるようにするのである。これは実際にあつた話である。一九四一年のちょうど今頃のことだつた。9月に結婚したばかりの19歳の少女が妊娠し苦しんでいた。医者達は彼女の拒食症や消化不良、また、たまに彼女を襲う激痛の原因を非常に悪化した胆嚢のせいだと判断した。胆嚢が正常に機能しないのは彼女が妊娠しているせいもあつた。医者は、『赤ん坊を流産させて』胆嚢を取り除くのに必要な体力を彼女につけさせようとした。

彼女は泣いた。それは嫌だ、と言つた。夫と話し

合つた結果、彼も嫌だと言つた。大至急手術をしなければ赤ん坊も母親も二人とも死んでしまう危険のあること、そしてその手術は妊娠している状態では行えないことを医者達は警告した。(これが一九四一年の医学の現状であつた。)彼女は構わないと言つた、赤ん坊が死ぬのなら私も一緒に死ぬ、どちらかを選ぶことなどできないと言ひ張つた。

彼女はそれから4、5カ月をベットの所で過ごした。仰向けになり、体重はどんどん減り、体も弱つて点滴で栄養をとる始末だつた。7月に入って医者達は、赤ん坊を40日早く産むことを彼女に説得した。体が弱り果てていて出産時に死にかけたりもした。何週間かして胆嚢を

という選択をすることもできません。たとえ、どれほどその老人の生命が不完全なものとも判断できたとしても、私たちはその老人を殺すことはできません。

しかしながら、私たちは『女性には選択の権利がある』と教えられています。中絶がそれです。けれども討論はここで行き詰まります。

中絶は単に選択の問題でしょうか。

妊娠した瞬間から、子宮の中の胎児は人間です。全ての人間が持つ生きる権利を、同じように受け継いだ一人の人間なのです。妊娠6カ月の胎児と産後6カ月の乳児の間に違いはほとんどありません。ただ大きさ、成熟さ、生育の場が違うだけです。両者とも存在するために他者に依存しています。最も大きな違いは、私たちは一方はこの目でしっかり見るこ

とができますが、もう一方はそうではないということです。

中絶における選択とは、人間の生命を破壊するかどうかということです。中絶は選択の問題だということでは意味が通りません。私たちは何が選択できるのか、人間的な社会として、社会問題の解決に殺人を受け入れるのかどうか、自らに問う必要があります。

今日多くの女性が望まない妊娠に対処する時、孤独を感じます。子供にどうやって食べ物を与え、保護し、育てるかを知らずに妊娠に直面することは、恐ろしいことでしょう。子供が生めるかどうか、養子縁組みをして子供を手離すことができるかどうかと不安に思うのも恐怖でしょう。女性はしばしばそのような耐え難く苦しい状況に、地域社会のメンバーとしてではなく、たった一人

で直面するのです。

私たちは女性、男性ともに、彼ら自身とその子供たち、産前、産後とも生き、成長していけるような選択ができる計画を必要としています。社会が一つのまとまりとして、妊娠に関する問題に一人で格闘している人々を助けるよう働かなければなりません。私たちが地域の人々の面倒を見る社会として機能するならば、全ての人々の重荷を処理する方法を見つけないければなりません。そうする中で、私たちはさらに充実した文明社会を形成することになるでしょう。そこでは、強い者だけが生き残るのではなく、全ての人々が生き、繁栄することができるので

中絶は単なる選択の問題ではありません。しかし確かに選択を提示します。それは、私たちが、一人一人の生命を大切に守る

社会を築くのか、それとも社会はある人々の生命を切り捨てていくのか、という選択です。この選択は私たちがするのです。

私たちに何ができるのでしょうか。

全ての人間の生命が尊重されるように祈りましょう。使徒パウロの次の言葉を思い出します。

「わたしを強めてくださるかたのおかげで、わたしにはすべてが可能です。」  
(フィリピの)

信徒への手紙4:13)  
妊娠中の女性やその子供たちの世話をし、中絶をするようにと圧力を感じる女性が一人もいないようにします。

公式の討論に参加しましょう。常に情報を集め、自分の情報や関心を他の人々と分かち合います。自分の考えを最もよく代表する政治家に投票

しその政治家を助けます。彼らに人命擁護の法律を支持してくれるよう頼み、彼らの支持に感謝しましょう。

生まれていようといまいと、すべての人の生命を保護するための教育、サービス、公共の法的努力に従事している地域社会の集団や運動に参加しましょう。

# ABORTION

## QUESTIONS & ANSWERS

### 生命の起源

精子と卵子の結合後起こること…妊娠中の九ヶ月間、胎児は子宮内でどのように成長するのか？

受精：受精こそが新しい生命の始まりである。この時点で既に、我々の肉体と頭脳を形成するために必要な遺伝的情報は備わっている。つまり、受精時には食物と栄養分を除いた全ての要素が完成し、一個の人間としての生命が開始しているのだ。

1ヶ月：受精後4週間で、子宮壁に着床したこの小さいが確かに生命を持つ胎児には、目、脊髄、神経系、肝臓、そして胃の発達が見られる。受精後18日

にして動き始める原始的心臓は、4週間後では生命を存続させるポンプの作用として、確実に働いている。

6週間：体長わずか1

5cmほどだが手足を有し、羊水中に浮かんでいる小さな赤ん坊は、へその結によって母体とつながっている。この時期までには、成人と同様に全内臓器官が完成している。

2ヶ月：8週間で、胎児

は3cmほどの大きさとなり、9ヶ月後の予定日に生まれる赤ん坊が持つ全ての機能が備えられる。この「小さきもの」(ラテン語訳でいう「胎児」)は、成長し続ける権利がある。「小さきもの」は、間もなくその手で握り始め、足で母体を軽く蹴り、自身も痛みを感じるようになる。

3ヶ月：羊水に浮かん

でいた胎児も8〜9cmを越す大きさになる。この段階で胎児は握り拳をつくったり、しゃっくりをしたり、眠ったり起きたりできるようになる。

4ヶ月：この時期は、顕

著な成長が見られる。もし妊娠中、これと同じ速度で発達し続けるならば、誕生時に赤ん坊の体重は14トンにもなってしまうだろう。今では接触や騒音を始めとする外界の出来事は胎児にまで届き、それに反応するようになる。

5ヶ月：20週目になる

と、母体が動くとき胎児は体を曲げ、母親が休んでいる時は体をのばすようになる。赤ん坊は非常に強く手で物をつかめるようになる。母親は赤ん坊のパンチやキックを頻繁に感じ始める。子宮内でおとなしい胎児もいれば、活発に動く胎児もいる。子供の個性

は、こつしたところにも現れるものだ。

7ヶ月：7ヶ月目から誕生時にかけて、胎児は身長が35〜50cmまでのび、体重は3倍近く増える。

「小さきもの」には、視覚、聴覚、味覚、触覚の四感が備わっている。あとは誕生の神秘の瞬間を待つのみとなった。

一人の人間が新たに生命を受けて後、初めの9ヶ月の歴史を紹介してきた。これまで述べてきたことは総て、生物の教科書で確認済みの事実ばかりである。もうお分かりだろう。受精がなされたその時点から、新しい生命の息吹が始まるというのは疑う余地のないことである。

### 国内ニュース

#### 《中絶は権利か?》

中絶はあくまでも罪悪ではなく、女性が健康でいるための権利の一つとして考えるべきなのです。

丸本百合子

産むか産まないかの選択は女性の人生を左右する大問題です。そしてその選択は、極めて個人的なことであり、法的に言えば基本的人権の一つである幸福追求権に当たります。

福島瑞穂

「中絶」は、私たち女性すべてに関わりのある問題であり、自分の人生を主体的に生きるために、私たちは中絶を選択できる自由を「権利」として持つていなければならないのだ。

モア・リポートNOW

母親の幸福追求権の

ために、お腹の中の赤ん坊は『死』という形を余儀なくされます。産まれていなくても胎児は生きています。社会の中であろうと、母親の体内であろうと、『今、生きている』という事実は、母親も胎児も同じではないですか？胎児は、サルでもトリでもない、紛れもない『人間』なのです。真に『尊重』とか『権利』『人権』とか言つのなら、中絶を認めることではなくて、『生命を大事にする』『人を大事にする』『人をつくり、社会づくりを目指す』ことで、それは中絶を認めることよりずっと大変で、そしてずっとずっと時間のかかることだけれど、全ての問題の根源であると言えるのではないのでしょうか。

プロ・ライフ

## 国際ニュース

### 【女性、病院で餓死する】

オランダの病院で女性が飢えのために死亡した。この女性の一人息子は、母親の命を救ってくれるよう懇願したが、裁判官や担当の医師はこれを拒絶、その後1月19日に死亡したものである。

イナク・スチナッセンさん(47才)は、一九七四年、帝王切開の手術の際使用された麻酔の後遺症で脳死は免れたものの脳に損傷を受けた。それが原因で昏睡状態に陥り、それ以来15年間にわたって管を通して食物が与えられ、命をつないできた。しかしそれでも末期患者というわけではなく、事実もし食物や水、一般的な看護を今まで通り受けてさえいれば、まだ何年間も生きていられたのである。ところが、別

の女性と数年間にわたって同棲していた彼女の夫は、裁判所に妻の死を望む訴えを行った。それを受けて裁判所は、一九八九年11月に彼女の受けている栄養物は命をつなぎ止めているものではなく、単なる医療処置であるという定義付けを布告。この裁判所の下した定義付けに基づいて医師団は彼女に栄養物を与えていた管を取り外すことが可能になり、一九九〇年1月8日に実行したのである。この処置に一人息子が反対、裁判所に訴えたが、1月11日に却下された。その結果、1月19日死亡。原因は「飢え」である。

### 【南アフリカの

#### 黒人をねらう中絶】

ている。その病院に対して35万ランド(アメリカドルにして17万5千ドル)もの金額が、ロンドンに本拠地をおく人口抑制団体「マリー・ストウプス・インターナショナル」より提供されている。このような南アフリカ黒人を対象とした同様なセンターはこの病院にとどまらず、これらきつかけにこれからどんどん作られていくと思われる。

スウェーデンで中絶された子供に対して敬意

ボツワナにある南アフリカ黒人のホームランドで中絶専門病院が開業し

スウェーデンで、中絶の犠牲となつて生まれる前に生命を摘まれた子供たちにも敬意の念が示されるようになるかも知れない。これは、スウェーデン国立社会局委員会の推薦が採択されればの話である。提案された内容は、中絶された全ての子供も小

さな棺に入れられてきちんとは火葬されるべきだといふもので、現在の状況は、中絶された子供の死体は病院で出される他の廃棄物と一緒に容器の中に捨てられ、焼却されている。

暑中お見舞い

申し上げます。

この度、旭川六条教会にて貴事務所のことを知りました。

詳しく読んでいませんので内容がよく分かりませんが、中絶反対について関心があります故、ニューズレター等、送っていたいただけますようお願いいたします。

私も昨年離婚を決心し、妊娠中でしたので中絶するのかわいそうだしと随分悩みましたが、事はよい方向に進み、昨年11月女の子を出産致しました。今は9ヶ月になる長女を囲み楽しい家庭生活が営まれ、あの時中絶していたら一生後悔していたであろうと考えさせられ、中絶反対に関するささやかな奉仕をしたいと願っていたところです。

関係者の皆様、暑い中ぐれぐれも御自愛されます

ようお祈り致します、まずは、お願いまで…

(Kさん)

(昨年お手紙いただいて、その後ずっと支援して下さっています。)

「いのちあるすべてのものに…」

約15年程以前のこと、私は東京吉祥寺の修院で二人のノービスと留守番をしていた時のことだった。まだ飛べない小鳥が窓辺にいた。ひとりのノービス



がそれをつかまえて廊下に入れた。一日中じっとしていたが夜には中庭に置いてやった。朝になるとそこに居ない。どうしたのかと案じていたらなんと、両親らしい鳥と共に帰って来て、小鳥の方は一日中じっと私たちが祈っている方を見ているのだった。私たちは詩編84を唱えていた、

すべてを治める神

わたしの王、わたしの神よ、

あなたの祭壇のきわに、  
すずめさえすみかを見つけて  
つばめも巣を作ってひなを育てる

Sr・井上満洲子

妊娠中の

女性のための祈り

神さま、

妊娠中の母親たちに勇気をお与えください  
彼女たちがおなかの子を愛し、育むことができますように、

そして彼女たちが、おなかに宿る生命を傷つけるような行為を避けることのできる勇気をお与えください  
彼女たちが、喜んで、気持ちよく、安心して、健康な子どもを生めるようにお助けください  
また、社会のすべての人々をもお導きください  
アーメン。

## 二人の愛と受胎

「ベリングズ・メソッド」  
自然な家族計画」

自然な家族計画のためには、まず、受胎と性的な営みとが正しく評価されそして、受胎に至るプロセスを支配している自然の法則を理解することが必要です。この方法は生物学的なプロセスに逆らわないだけでなく、夫婦と一緒に自由な選択をすることが可能になり、夫と妻との尊厳を大切にします。こうして、夫婦相互の愛を強め、また、二人の愛と受胎への忠実な一致において生命を得、受け入れられた子供たちへの愛をも強めることとなります。

ジョン・J・ベリングズ

## 《事務所だより》

運動会は終わってしまいましたが、季節は秋たけなわ、皆さまはどんな秋を満喫されているのでしょうか。さて、皆さまはプロ・ライフニュースにどんな感想をお持ちでしょうか。ニュース作りは・編集・構成、レイアウト、記事のチェック等、素人がやっていますので、度々不手際があります。とくに翻訳記事の未熟さは、幾度かご指摘を受けました。そこで、全国の皆さまにお願いいたします。専門的知識や技術をお持ちの方、私たちと共に紙面作りをしていただけませんか。そちらとこちらで少し手間はかかるかもしれませんが、電話やファックスもある便利な世の中ですから…。是非、お力を！

それからもう一つ、ポツポツですが、皆さまからの記事も寄せられています。もっともっとと広く、多くの人の意見や感想を求めています。皆さまの意見がとびかような活発な紙面になったら…と思っています。

プロ・ライフの活動は、皆さまのご支援が頼りです。励みです。どうぞよろしくお願いいたします。皆さまからのご連絡をお待ちしています。今回は、お願いばかりの事務所だよりになりましたが、最後にもう一つ、資金面でのご協力も是非よろしくお願いいたします。皆さまからのご支援にこの運動の存続がかかっています…。

10月4日

プロ・ライフ・ムーブメント スタッフ一同

